



ボッシュの 2015 年暫定業績 ボッシュの売上高が初めて 700 億ユーロ(約 9.4 兆円*) を突破 イノベーションとネットワーク化が成長の原動力に

2016 年 1 月 27 日
PI 9158 RB ML/SL

- ▶ ボッシュのデナーCEO:「ボッシュは事業目標を達成」
- ▶ 売上成長率は約 10%
- ▶ 利益は約 50 億ユーロ(約 6,700 億円)を記録
- ▶ 売上高利益率(EBIT)は約 6.5%に上昇
- ▶ モビリティソリューションズは世界の自動車生産高を上回る速度で成長
- ▶ エネルギー・建築関連テクノロジーセクターは増収のペースを加速
- ▶ アジアと北米では 2 桁の売上成長

シュトゥットガルト -ボッシュ・グループは 2015 年に初めて 700 億ユーロ(約 9.4 兆円)を超える売上高を達成しました(暫定値)。売上の前年比伸び率は約 10%¹で、利益も改善し、支払金利前税引前利益(EBIT)が特別要因を含めて約 50 億ユーロ(約 6,700 億円)に上りました。なお、特別要因を除いた後の利益は 45 億ユーロ(約 6,000 億円)となります。売上高利益率(EBIT)は約 6.5%で、同一条件で計算した場合の前年実績を上回りました。自己資本比率は健全なレベルにあり、BSH Hausgeräte GmbH と Robert Bosch Automotive Steering GmbH の完全子会社化のために 10 億ユーロ単位の資金を費やしたにもかかわらず、高水準の流動性を維持しています。「私たちは技術革新力をばねに、厳しいビジネス環境と市場の低迷を乗り越え、2015 年も成長傾向を維持することができました。業績改善の最大の原動力となったのは、ネットワーク化ソリューションを相次いで打ち出したことです」と、ボッシュ取締役会会長のフォルクマル・デナー(Volkmar Denner)は述べました。

¹旧年中に完全子会社化の手続きを終えた Robert Bosch Automotive Steering GmbH(旧 ZF Lenksysteme GmbH)と BSH Hausgeräte GmbH(同 BSH Bosch und Siemens Hausgeräte GmbH)は、2015 年度決算で初めて完全連結化されました。以下に掲げる 2014 年の数字は、2015 年との同一の条件での比較を可能にするために、事業基盤調整を行った後のものです。

ボッシュが形づくるデジタル革命

ボッシュでは現在、とりわけ [IoT](#) (モノのインターネット化) によるネットワーク化をベースに、事業変革が進んでいます。その一部は根本的なレベルで進んでいます。ボッシュは IoT の 3 つのレベルのすべてでアクティブに事業活動をしている、世界で唯一の会社です。ボッシュ・グループはネットワーク化を実現するための基礎技術、たとえば [センサー](#) やソフトウェアを提供するだけでなく、それをベースにした新しいサービスの開発を進めています。「センサー、ソフトウェア、そしてサービスに関する専門知識を駆使し、私たちはネットワーク化された世界を形づくり、新しい [ビジネスチャンス](#) を切り拓こうとしています。そんな私たちにとって、『デジタル革命』は脅威ではなく、それどころか大きなチャンスだと考えています」とデナーは述べています。たとえば数週間前にボッシュ・グループは、スマートホーム市場への参入を明らかにし、ラスベガスで開かれた CES 国際家電ショーで、ボッシュは社内で開発した [スマートホームシステム](#) を初めて公開しました。

2015 年のビジネスセクター別業績動向

2015 年の売上動向は、傘下の 4 つのセクターによってばらつきが見られました。ボッシュの財務担当取締役兼ボッシュ取締役会副会長のシュテファン・アーセンケルシュバウマー (Stefan Asenkerschbaumer) は、「2015 年に私たちは多くの分野で、市場地位と競争力の向上、マーケットシェアの拡大を達成できました」と述べています。世界の自動車産業が需要低迷に苦しむ中、[モビリティソリューションズ](#) セクターは暫定値ながら、売上を大幅に伸ばすことができました。2015 年の同セクターの売上高は計 417 億ユーロ (約 5.6 兆円) と、前年比 12% の増加を記録しました。なかでも好調だったのが、ガソリン/ディーゼル燃料の噴射システム、[ドライバー アシスタンス システム](#)、[インフォテインメントシステム](#) です。消費財セクターも非常に堅調な成長を遂げ、売上高は前年比 9.3% 増の 172 億ユーロ (約 2.3 兆円) となりました。このセクターでひととき売れ行きが好調だったのは、コードレスタイプの電動工具と、ネットワーク機能に対応したコンロなどの家電製品です。

[エネルギー・建築関連テクノロジー](#) セクターの成長率は 11% で、売上高は 51 億ユーロ (約 6,800 億円) となり、前年に比べて大幅に増加しました。この成長の要因として、サービス、大型インフラ事業向けのセキュリティシステムのほか、ネットワーク化された [スマート空調ソリューション](#) が挙げられます。[産業機器](#) セクターでは、世界的な機械産業の活動低迷の影響が続いており、売上高は前年比 1.7% 減の 66 億ユーロ (約 8,800 億円) に後退しました。ドライブ & コントロール テクノロジー事業部も 2015 年に、機械市場における重要なセグメントのさらなる景気後退の影響を受けました。

2015 年の地域別業績動向

欧州での事業は 2015 年に力強い動きを示しました。売上は前年に比べて確かな伸びを記録し、暫定値では売上高は前年比 4.2% 増の 375 億ユーロ (約 5 兆円) に上りました。他の欧州諸国と同様、[ドイツ国内](#) も順調に推移しました。[売上が大きく伸びた地域](#) は北米で、売上高を前年比で 24% 伸ばし、126 億ユーロ (約 1.7 兆円) を達成できました。一方の南米では、なお困難な状況が続き、それがボッシュ・グループの売上動向にも影

を落としています。暫定決算報告によれば、2015年の売上高は14億ユーロ(約1,900億円)と、前年に比べて13%減少しました。**アジア太平洋地域**では、ボッシュは前年比16%増にあたる191億ユーロ(約2.6兆円)の売上を達成しました。ボッシュが長期的に**大きな潜在性がある**と見ている**アフリカ**でも、2015年に事業拡大の努力が続けられました。

従業員数は欧州、アジア太平洋地域と米国で増加

ボッシュ・グループの従業員数は、2015年12月31日時点、全世界で約37万5,000人に達し、2015年に約1万7,600人増加しました。従業員が特に増えた地域は、中部および東ヨーロッパ、ドイツ、アジア太平洋地域と米国です。職種別では、ボッシュは特にITスペシャリストの獲得に力を注いでいます。

2016年の展望 – 慎重ながら楽観的

ボッシュは2016年について、世界経済の成長率が2.8%程度にとどまると予想しています。「特定の地域、特定の業種分野で市場の一段と大幅な変動に備える必要を感じています」とアーセンケルシュバウマーは述べています。地政学的に2016年の情勢は複雑で、少なからぬ不安要因を抱えています。このような状況下においても、ボッシュはこれまでの成長傾向を維持し、さまざまな分野で市場の平均以上の成長率を実現したいと考えています。ボッシュは長期的な事業発展の可能性を確保するために多額の投資を行ってきましたが、利益と売上高利益率(EBIT)はさらに改善する見通しです。

ネットワーク化ソリューションで、より簡単でシンプル、そしてより良い暮らしを実現

ボッシュは戦略的な目標として、コネクテッド**モビリティ**、コネクテッド**プロダクション**、そしてコネクテッド**エネルギーシステム**と**ビルディング**のためのソリューションを提供することを掲げています。この目標に沿うかたちで、ボッシュは2015年にいくつもの新しいソリューションを発表しました。「ネットワーク化のためのテクノロジーは、資源の枯渇や都市化など、私たちの行く手に待ち構える課題を克服するための重要なカギとなります」(デナー)。その一例が、スマートにネットワーク化されたビルシステムです。ビルのシステムをネットワーク化すると、エネルギー消費量を最大40%節約することができます。2020年までに、世界の総世帯数の15%にあたる2億3,000万世帯にスマートホームソリューションが導入される見通しです。デナーはこう続けます。「コネクテッドテクノロジーとシステムは、あらゆるユーザーが直観的かつ簡単に操作できるものである必要があります」。そのため、ボッシュが**スマートホームシステム**の開発で特に重視しているのが、ユーザーエクスペリエンスです。新しいシステムは、単一のプラットフォームをベースに、空調設備や家電製品、オーディオ/ビデオ機器、照明、さらにセキュリティシステムなどの機器類をスマートにネットワーク接続でき、スマートホームの機器類はすべてスマートフォンやタブレット端末から1つのアプリで遠隔操作できるようになっています。

得意分野の強みを活かして新しい世界に進出

「私たちはスマートホームやコネクテッドインダストリーなど新しい市場の扉を開く努力を続ける一方で、既存の市場にある機会も逃さず掴み取っていきたいと考えています」とデナーは述べています。そうした機会には、モビリティの電動化も含まれます。2015年にボッシュが行った M&A の中でとりわけ重要なものの 1 つが、米国のバッテリー技術のスタートアップ企業である [Seeo 社](#) の買収で、これによりボッシュは固体バッテリーセルのパイオニア的なノウハウを手に入れることになりました。デナーはこれについて、「この事業が進化論的に発展するのか、既存の産業基盤を覆すようなかたちで発展するのかはともかく、ボッシュは将来もその一翼を担い続けます」と述べています。ボッシュは、[二輪車と商用車セグメント](#)にも大きな可能性があると見ています。市場と顧客のニーズにより良く応えていくために、ボッシュは最近、それぞれのセグメントを担当する専門の部門を発足させました。自動化、電動化、ネットワーク化というモビリティの 3 つの重要なトレンドは、商用車と二輪車にも長期的な影響を与えることになる見込みです。商用車セグメントでは、事故の減少に向けて自動化が次第に重要な役割を担うようになってきました。二輪車関連では、現在標準的に用いられているキャブレターシステムの代わりに燃焼噴射システムを採用することで、燃費を向上し、特に発展途上国で資源の保護に貢献できると考えています。

温室効果ガスの減少 - ディーゼルエンジンなくして実現不可能

これに関連してデナーはまた、地球温暖化防止の目標を達成する上でのディーゼル技術の重要性を次のように強調しました。「例えば EU が掲げる意欲的な CO₂ 排出削減目標ひとつをとっても、ディーゼル技術なくして達成は望めません。」ディーゼル車が排出する CO₂ は、ガソリン車と比べてはるかに少量です。「都市部の大気の質と粒子状物質 (PM) の議論において、ディーゼルは問題の一部ではなく、問題解決策のひとつとして捉える必要があります」とデナーは述べています。ディーゼル車の最新のフィルター技術は、自車の微粒子排出を抑制するだけでなく、大都市の大気に含まれる、他の原因に由来する微粒子もフィルタリングできるという意味で、「ディーゼルは空気清浄器」と言えるでしょう。デナーは、ディーゼルパワートレインはさらに改良されるという確信を改めて表明しました。「ボッシュには実際の走行条件下を含め、ディーゼルの窒素酸化物 (NO_x) の排出量を非常に低いレベルに抑える技術があります。ディーゼル車が現行の大気汚染防止基準をテストベンチ上だけでなく、路上走行中でも達成できるようにすることが私たちの開発目標です」とデナーは続けました。そうした立場から、ボッシュは最近より現実的な排出ガステストサイクル、そして路上での排気ガス測定を導入する案を支援する立場を明確にしています。デナーはまた、中立的な試験機関による量産車の定期的な排出ガスの検査の導入に賛意を表明しています。

摘要:

2015年の売上高と、以前に開示された2014年の売上高490億ユーロとの差異の要因は、BSH Hausgeräte GmbHとRobert Bosch Automotive Steering GmbHが今回初めて完全連結対象になったことによるものです。増収額のうち、150億ユーロ分は主に事業基盤構成の変化によるものです。

*本プレスリリースで公表した売上高は2015年の平均為替レート(1EURO=134.3円)で換算されています。

▶2015年の主要業績データは以下でご覧いただけます。

[KPIシートへのリンク](#)

報道用画像: 1-BBE-21802、1-BBM-21857、1-CR-21570、1-RB-21095、1-RB-21067、1-RB-21877、1-CR-21633、1-BBM-21502、1-CR-21716

チャート:

1-RB-21904、1-RB-21905、1-RB-21906、1-RB-21907、1-RB-21908

ビデオ:

[ポッシュのセンサーソリューションがウェアラブル端末の実現を可能に](#)

[コネクテッドカーがパーソナルアシスタントに](#)

[スマートホーム:ユーザーの願い](#)

[アクティブ駐車場管理](#)

[コネクテッドプロダクトポータル](#)

[コネクテッドインダストリー4.0](#)

[働く環境とオフィス](#)

[レニンゲン研究開発センター](#)

報道関係対応窓口:

René Ziegler, phone: +49 711 811-7639

Melanie Loriz, Phone: +49 711 811-12798

Nicole Neuer, Phone: +49 711 811-11390

世界のポッシュ・グループ概要

ポッシュ・グループは、グローバル規模で革新のテクノロジーとサービスを提供するリーディングカンパニーです。2015年の従業員数は約375,000人(2015年12月31日現在)、暫定決算報告での売上高は700億ユーロとなっています。事業はモビリティソリューションズ、産業機器テクノロジー、消費財、エネルギー・建築関連テクノロジーの4事業セクター体制で運営しています。ポッシュ・グループは、ロバート・ポッシュ GmbHとその子会社約440社、世界約60カ国にあるドイツ国外の現地法人で構成されており、販売/サービス代理店のネットワークを加えると、世界の約150カ国で事業を展開しています。この開発・製造・販売のグローバルネットワークが、ポッシュのさらなる成長の基盤となっています。2015年にポッシュは全世界で約5,400件の国際特許の基礎特許(第一国出願)を出願しています。私たちポッシュ・グループはコネクテッドライフに向けたイノベーションの提供を戦略的目標に定め、革新的で人々を魅了する全製品とサービスを通じて人々の生活の質を向上します。つまり、ポッシュはコーポレートス

ローガンである「*Invented for life*」-人と社会に役立つ革新のテクノロジーを生み出していきます。

ボッシュの起源は、1886年にロバート・ボッシュ（1861～1942年）がシュトゥットガルトに設立した「精密機械と電気技術作業場」に遡ります。ロバート・ボッシュ GmbH の独自の株主構造は、ボッシュ・グループの企業としての自立性を保証するものであり、ボッシュは長期的な視野に立った経営を行い、将来の成長を確保する重要な先行投資を積極的に行うことができます。ロバート・ボッシュ GmbH の株式資本の92%は慈善団体であるロバート・ボッシュ財団が保有しています。議決権の大半はロバート・ボッシュ工業信託合資会社が保有し、株主の事業機能を担っており、残りの株式は創業家であるボッシュ家とロバート・ボッシュ GmbH が保有しています。

さらに詳しい情報は 以下を参照してください。

www.bosch.com ボッシュ・グローバル・ウェブサイト（英語）

www.bosch-press.com ボッシュ・メディア・サービス（英語）

<https://twitter.com/BoschPresse> ボッシュ・メディア 公式ツイッター（ドイツ語）

www.bosch.co.jp/ ボッシュ・ジャパン 公式ウェブサイト（日本語）

<https://twitter.com/Boschjapan> ボッシュ・ジャパン 公式ツイッター（日本語）

<https://www.facebook.com/bosch.co.jp> ボッシュ・ジャパン 公式フェイスブック（日本語）

<https://www.youtube.com/boschjp> ボッシュ・ジャパン 公式 YouTube（日本語）